

〔一〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

イギリス気象局OBのディック・ファイルという人がこんなことをいつている。

「イギリスでは、二人の人間が顔を合わせると、挨拶がわりに『いい天気ですね』とお天気の話をする。これならば急いでいるときでも礼儀正しく、ちよつと言葉をかわすだけでわかれることもできる」

日本でも同じだ。お天気は①「フ難で当たり前な挨拶のネタになつてゐる。ディック・ファイルはこれに関して「お天気が挨拶になるのはイギリスのお天気が変わりやすいからだ」と解釈してゐる。

なるほど、乾季のインドで、連日の新聞の天気予報欄に「今日の天気・気温は昨日と同じ」と書かれていたのを見て呆れたことがある。②「これではお天気は挨拶にはならない。

当たり前と思つていたお天気の挨拶も、実は日本やイギリスのように、変化に富んだお天気に恵まれた国だからこその特権といえるかもしれない。また日本では、古くから雨を必要とする農業を主な産業としてきたから、降雨などに対する感性を鋭く磨くことが不可欠ともされてきた。

Ⅰ カエルが鳴くと雨、魚が跳ねると雨、ツバメが低く飛ぶと雨、さらには太鼓の鳴りが悪いと雨など、身の回りのあらゆる現象から、雨の前③「チョウが感じ取られていたのである。

そのようにして、昔の日本人が経験や言い伝えから学びとってきた「④雨の降るシステム」は、いまや科学がほとんど全てを説明してしまつた。雨はどうして降るのか。それに答えるのは現代では簡単である。最も単純に言えば、空気が湿つていて、上に吹く風があれば、そこに雲ができて雨が降る。

上昇気流のあるところに雲ができるのは、空気が上昇するほど膨張して冷えていくからだ。空気は温かいほど多くの水蒸気を含むことが出来るが、そんな温かく湿つた空気が上昇して冷やされると、あぶれた水蒸気が細かい水や氷の粒となつて姿をあらわす。これが雲。さらに発達すると、雨や雪になる。

そして雨が降ると気になるのが天気予報だ。いま主流となつてゐるのは、より根本的にお天気のメカニズムを解明し、それを方程式としてスーパーコンピュータで解いてしまおうという「数値予報」である。ことわざや伝承でお天気を予想していた時代、さらには昭和の初めまで、天気図を頼りに予報官の目⑤「サンで決めていた天気予報と比べて、格段の進歩である。ただ、数値予報が対応するのは、十数キロ単位のお天気まで。お天気というのは山ひとつ越えれば簡単に変わつてしまふから、たまたま「はずれ」のところに居合わせることだつてある。それでも大局的には、天気予報は驚くほど正確になつてゐるのだ。

さてでは「数値予報」が誕生する以前、日本人は雨とどう付き合つてきたのか。Ⅱ「雨は日本人の精神や生活様式にどんな影響を与えてきたのだろうか。

和辻哲郎は『風土』(一九三五年)において、日本人はモンスーン(季節風)地帯の受容的忍従的生き方を基とし、激情とあきらめが混在していると指摘した。さらにその原因は、四季の変化の激しさにあるとしている。

季節風、台風地帯。これは四季を通じて、雨が多いということ。雨は水を生む。「文明と水の消費量は正比例する」という言葉もあるくらいだ。もちろん少なすぎると旱魃、多すぎると洪水などの災害になるように、確かに雨にはやっつかいな一面もある。Ⅲ「水を必要とする農業が主な産業だつた日本人の願いは、雨が適度に降ることだつた。⑥「この願いは、宗教や儀礼などにも結びついてゐた。

さらには、日本各地には雨やお天気に関することわざが数多く残つてゐる。「夕焼けならば明日は晴れ」という有名なことわざがある。お天気は西から東へと移動するが、夕焼けはA「に悪天候の雲がないという証拠。だから明日の天気はよくなるということだ、一応理屈は通つてゐる。

ただし夕焼けになれば、いつでも晴れるとは限らない。同じ夕焼けでも、西の高い空に雲が浮いてゐることがある。その雲が低気圧の接近の前触れとなる「絹雲」や「絹積雲」であれば、むしろお天気は崩れる。

しかしだからといって「ことわざなんかあてにならないのだ」と短絡的に考へてはいけぬ。なぜならことわざ

ざというの、昔からの経験や教訓を言葉にしたものだから、まるで信用できなければ、語り継がれることなく消え去ってしまうだろうからだ。いまでも残ることわざに関して、それなりに検討してみる価値がある。昔の日本人にとって、ことわざとは(4)文化と科学が一体となったものだったと考えるべきなのだ。

雨の文化という意味では、雨ごいの風習も重要である。現代ではどちらかというと雨の日が嫌われ、晴れの日が好まれる。しかし昨年の夏のように水不足になると、さすがに農耕民族としての遺伝子が蘇る。日本各地で雨ごいの儀式が復活したという。

雨ごいの風習というのは世界各地にある。いずれも「神様に雨を降らせてもらうように働きかける」という点では共通しているが、(5)そのアッピールの方法はさまざまである。

第一の方法は、単純に、ひたすらお願いするというもの。踊りを披露したり、奉納相撲をしたり、お供え物をあげたりして、雨を降らせてくださいと拝む。

第二の方法は西洋に見られるもので、雨を神様の涙と考えて、とにかく泣いていただこうというもの。文字通りの涙雨だ。

その泣かせ方だが、ポピュラーなのは羊や白鳥などといった従順な動物をいじめて、雨神さまの涙をさそうというもの。そんな弱いものイジメのようなことをすると、泣くどころか怒り出す神様もいそうだが、この怒らせるといいうのも、日本では雨ごいの第三の方法として存在しているのだ。

実は日本では、雨そのものは神格化されておらず、水神さまや竜神さまの出現にともなう現象として雨が降るものとされていた。そこで例えば、用水池や川に汚いものや石を投げ込み、怒った水神さまが現れるのを待つ。あるいは川をさらって魚を苦しめ、竜神さまが魚を助けにくるときに降らせる雨を期待する、という方法が考えられた。

ちよつとエゲツないが、神様だろうが人間だろうが、わざわざ怒らせようとするなら、うんとエゲツない方が

効果的ではある。一風変わった雨ごいの風習として、鳥取市の越路地区では、早魃になってから降雨を祈るのでなく、毎年の秋の収穫期が終わってから氏神さまへの感謝の行事としての雨ごい踊りが傳承されている。

このように日本人は、雨と深く関わって生活してきた。現在でもわれわれの日常と雨、水とは切り離せないものがある。雨を嫌うばかりでなく、雨を乞う気持ちも大事。先人たちを見習って、早魃になってから神様を怒らせる方法を考えるのではなく、常日頃から雨へのこうした **B** の気持ちを忘れないようにしておくというのはどうであろうか。

(阿陀光南「雨と日本人」より。出題にあたり、原文の表記を一部改め、また一部省略しました。)

問1 線①②③と同じ漢字を使うものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① プ 難

- ア 多勢に**プ**勢ではかなわない。 イ 文**プ**両道にはげむ。
ウ 細**プ**にわたって検討する。 エ 人手**プ**足で困っている。

② 前チヨウ

- ア 人の命に軽チヨウはない。 イ 時代のチヨウ流に乗る。
ウ 一チヨウ円の赤字を出す。 エ 道路を拡チヨウする。

③ 目サン

- ア ストレスを発サンする。 イ 過去の事例をサン考にする。
ウ 必要経費をサン出する。 エ ばく大な遺サンを相続する。

問2

I

III

にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度選んではいけません。

ア

だから

イ

ウ

エ

オ

問3

線(1)「これではお天気は挨拶にはならない」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア

乾季のインドでは天気が良いのは当たり前なので、だれもその日の天気に関心を持っていないから。

イ

乾季のインドでは天気を気にする必要がないので、人々に天気に対する感性が育たなかったから。

ウ

乾季のインドでは毎日同じ天気のくり返しなので、天気を話題にした挨拶の言葉が少ないから。

エ

乾季のインドでは天気の変化が少ないので、取り立てて天気を話題にする必然性がないから。

問4

線(2)「雨の降るシステム」の説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア

人々の長い生活経験が集約された合理的な思考。

イ

人々が日常の暮らしの中で得てきた生活の知恵。

ウ

自然との共生の中で蓄えてきた昔の人々の知識。

エ

科学的知識のない古代の人々が信じ込んだ迷信。

問5

線(3)「この願いは、宗教や儀礼などにも結びついていった」について説明した次の文の 1

日本人の生活に

1

な雨が降るように

2

などが行われた。

問6

A にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア

イ

ウ

エ

問7

線(4)「文化と科学が一体となったもの」とはどのようなものですか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多くの人々の長い間の生活経験から生まれ、後世の人々にも絶大な支持を得ているもの見方。

イ 多くの人々の生活経験の中から自然に生み出され、現代科学でも正しいと証明された言い伝え。

ウ 多くの人々の長い生活経験を通して正しいと判断され、後世の人々に受け継がれてきた考え方。

エ 多くの人々の生活経験を通して科学的に正しいと判断され、後世にも語り伝えられるべき知識。

- 問8 ———線(5)「そのアピールの方法はさまざまである」とありますが、「さまざま」な「アピールの方法」についての筆者の説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 神様に雨を降らせてもらうように働きかける方法としては、事が起きてから雨を降らせようとする方法がふつうだが、それだけでなく別の視点も大切だ。
- イ 神様に雨を降らせてもらうように働きかける方法の中で第三の方法は最も悪がしこいやり方ではあるが、それだけに大変効果のある画期的な方法である。
- ウ 神様に雨を降らせてもらうための方法としては大きく三つの方法が今に残るが、いずれも雨と深く関わってきた日本人の苦難の歴史を知ることができる。
- エ 神様に雨を降らせてもらうための方法はいくつもあるが、いずれの方法も他の弱い生き物を苦しめたりいじめたりするやり方なのであまり好ましくない。

問9 Bにあてはまる言葉としてもっとも適切な言葉を本文中から漢字二字でぬき出して答えなさい。

- 問10 本文における筆者の考えとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 水不足になると日本各地で雨ごいの儀式が復活するが、それはどんなに科学が進歩しても人間の考えることが今も昔もそれほど変わらないことを示すよい例である。
- イ 四季の変化の大きい日本には天気に関することわざが多く残るが、それらは科学と一体となった日本固有の文化としてこれからも大切にされるべきである。
- ウ 水蒸気を含んだ空気が上空で冷やされ雨になるというメカニズムが解明されたために、現代のような正確な天気予報が可能になったのである。
- エ 天気の変化に富む風土で暮らしてきた日本人は、天気に対する鋭い感性を持っており、挨拶がわりに天気の話題をよく用いるのである。

二 次の文章は、十七歳の理穂が過去を回想している場面をえがいたものである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

小学六年生の時、風邪をこじらせて入院した美咲を見舞ったことがある。本意ではなかった。師岡さんの入院が長引いているので、お見舞いに行きましよう、学級会で決まったのだ。みんなの書いた手紙とみんなで折った千羽鶴と花束を持って、先生と学級委員の友迫さんと一緒に、 病室に向いた。あたしの肩書は、友人代表。

「幼稚園のころから、ずっと一緒なんだから。理穂ちゃんと美咲ちゃんは、親友だよね」

というのが選出理由だった。今のあたしなら、一蹴する。親友なんて、しらじらしくも美しい言葉を美咲にだけは、使いたくない。でも、当時、あたしは十二歳で、十二歳のあたしは、 親友を見舞う優しい子の役を蹴つ飛ばすことができなかったのだ。

妙に白っぽい病室の真っ白なベッドに美咲は、横たわっていた。黄色い点滴の液が、チューブを伝い血管の中に落ちていく。十二歳の美咲は、茶パツのショートではなく、黒い長い髪をしていた。髪の色と唇の紅さが、顔の青白さを引き立て、ベッドの少女は周りの白さの中に今にも消えてしまいそうなほど、はかなげだった。

腕には、注射のあとがいくつも、赤黒い不定形な文様を作っていた。

「師岡さん、早く、元気になってね……」

みんな待っているからお見舞いの言葉を続けられなくて、友迫さんが泣き出した。

「師岡さん、かわいそう」

嫌な予感がした。ひどく落ち着かない気分だった。

こんなになって、痛いでしょうと、友迫さんはしゃくり上げ、先生も少し涙ぐみながら、その頭をなで、美咲の

お母さんは、

「ありがとう。優しいのね。でも、もう少しの辛抱なの。二学期からは、学校に通えるから仲よくしてやってね」と、エプロンで目頭をぬぐった。あたしは黙っていた。美咲は、目を閉じて動かない。指先だけが、シーツをにぎりこんでいた。

涙やら、思いやりの言葉やら、お見舞いの品やら、お礼のあいさつやらが、清潔な白い病室の中を行き来し、

それが一段落し、わたしたちは辞することになった。

「(3) 理穂ちゃん」

急ぎ足で病室を出ようとした時、美咲は目を開け、弱々しい声であたしの名前を呼んだ。ちゃんづけで呼んだ。嫌な予感は確信に変わり、あたしは、覚悟を決めた。

「もう少し……います」

そう、師岡さんを疲れさせないようにね。理穂ちゃん、あとでおばさんが、お家まで送って行くわ。師岡さん、さよなら。ほんとに、待ってるからがんばってね。じゃ、そこまでお見送ります。いえ、もう、よろしいですよ。先生、出席日数のことで……。

頭の上や体の横を、言葉は漂い、消えていく。みんな出ていく。閉まる寸前のドアの向こうで、友迫さんが目を赤くしてほえみ、手を振った。

(4) 最悪な展開だ。あたしは悟り、もう一度覚悟を決め、美咲のベッドまで大股で近づいた。美咲が起き上がる。

「理穂」

美咲は、あたしに構えるヒマを与えなかった。バシッと頬が鳴る。鋭い痛みが走る。よろめかないように、足を踏ん張るのが精一杯だった。

「よくも、こんなはずかしいこと、してくれたね」
息を荒くして、美咲がにらむ。点滴のチューブがゆれた。

「理徳、あんた、最低！」

「わかつてる！」

「わかつてない！」
②「わかつてる！」

わかっている。これは屈辱だ。美咲にとって、安易な同情ほど屈辱的なものは、ない。千羽鶴の束が、ベッドの下に滑り落ちる。

千羽鶴はいい。お見舞いの手紙も花束もいい。でも、友迫さんの涙だけは、まずかった。自分が、かわいそうな少女にされてしまったことに、美咲は蒼白になって怒っている。怒りながら、耐えていた。

「何よ、なんで、あたしが泣かれなくちゃいけないのよ。あんなふうには……」

美咲の目から涙がこぼれた。かみしめた唇から、うめきが漏れた。

悔しい、悔しい、ちくしょう。

他人に対し、かわいそうと泣くことに、人はもう少し慎重でなければならぬだろう。助力できるなら、救えるのなら、最後まで支え続ける覚悟があるのなら、泣けばいい。友迫さんの涙は、無責任だった。勝手に泣いて、かわいそうがって、自分の気持ちだけ浄化して、ほほえんでサヨナラなんて、あまりに無責任だ。無責任な覚悟のない優しさは、ただのあわれみにすぎない。あたしが美咲から学んだことだった。

あわれまれて、たまるもんか。

③シートの上で、美咲の涙がシミになる。

「わかつてる！」

あたしは、つぶやいた。あたしも美咲を侮辱した。優しい親友の役を拒否できなくて、 ついてきた。最低だ。わかっている。おばさんが帰ってきたのだ。あたしは、台の上の洗面器から、タオルをつかんだ。しつとり、ぬれている。

「美咲、これ、きれい？」

「そっただけど、何を？」

美咲をベッドに押し倒す。顔にタオルをかぶせ、拭く。骨の手ごたえしかない肩を押さえ、力をこめて拭く。拭けば、少しは涙の跡が隠せるだろう。美咲の泣き顔を誰にも見せたくなかった。たとえ、親にでもだ。タオルを放り投げ、ドアを開けたおばさんの横をすり抜けて、あたしは、曇り空の下を家まで走った。一度も、立ち止まらなかった。

(あさのあつこ『ガールズ・ブルー』より。出題にあたり、原文の表記を一部改めました。)

問1 〜〜線 a 「肩書き」、b 「一段落」の本文中での意味としてもっとも適切なものを次のア〜エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 肩書き

ア 望んだ任務
ウ 演じる役目

イ 決められたあらすじ
エ その時の立場

b 一段落

ア 並びと通りであること
ウ すこし休むこと

イ 一応の区切りがつくこと
エ まとめ上げること

問2 本文中に二か所ある□にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おたおた イ のこのこ ウ しずしず エ ぶらぶら

問3 —線(1)「親友を見舞う優しい子の役を蹴っ飛ばすことができなかつたのだ」とありますが、なぜ理穂はそうできなかったのですか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分一人で行くのはいやだがみんなの代表なら格好がつくから。
 イ 実は美咲とは親しくないと説明するのがめんどろだったから。
 ウ 周囲に期待されている役割を拒否する勇気がなかつたから。
 エ だれも見舞いに行かないというのはきまりが悪かつたから。

問4 —線(2)「嫌な予感がした。ひどく落ち着かない気分だった」とありますが、理穂がそのような気分になった理由を述べた次の文の□1・□2にあてはまる言葉を本文中からそれぞれ**五字以内**でぬき出して答えなさい。

入院している美咲の様子は理穂から見ても□1であつたが、それに対する友迫さんの言動は□2をしていているようであらうと思つたから。

問5 —線(3)「理穂ちゃん」という呼び方には美咲のどのような意図がこめられていますか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の中にこみ上げてきた激しい気持ちを、理穂にだけ伝えたいという意図。
 イ 今まで人に見せたことがない弱い自分を、理穂には察して欲しいという意図。
 ウ これまでのえらそうな自分の態度を、理穂に対してあやまりたいという意図。
 エ 自分が腹を立てていることを、みんなに対して改めて表現したいという意図。

問6 —線(4)「最悪な展開だ」の説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 美咲の強がついていた気持ちが悪くずれて、弱気になつてお母さんにさとられかねない展開。
 イ 友迫さんの涙を美咲が誤解していらだつていたので、理穂が間をとりもたなければならぬ展開。
 ウ 美咲が怒りをあらわにして、お見舞いに来たみんなを不快な思いにさせてしまいかねない展開。
 エ 友迫さんの態度が美咲を怒らせて、その怒りを理穂が一身にひきうけなければならぬ展開。

問7 ……線①③「わかってる」にこめられた理穂の思いを説明したものとしてもっとも適切なものを次の

ア、イの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 美咲に言われるまでもなく自分が最低であるということはわかっていた。しかし、目の前の美咲からそのように言われると悔しくてたまらず、かといって泣かれると自分を責める気持ちにさいなまれた。

イ 美咲が悔しく思っていることもその理由も十分すぎるくらいわかっていた。しかし、目の前にいる美咲と向き合う中で、理穂自身が美咲に侮辱を与えていた一人であったことを改めて思い知った。

ウ 美咲にはつきりと言われたことで自分が最低な人間であることがわかった。しかし、それをすなおに認めるのはプライドがゆるさなかったため、美咲に侮辱を与えてやろうと思いついた。

エ 美咲がどれほど傷ついているか完全に理解したとは思っていない。しかし、「わかってる」と何度も口に出すことで美咲に寄りそうことができるのではないかと考えるようになった。

問8 ……線⑤「美咲の泣き顔を誰にも見せたくなかった」とありますが、なぜ理穂はそう思ったのですか。もっとも適切なものを次のア、イの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 美咲が泣いた原因は自分にもあるということに負い目を感じ、せめてもの罪ほろぼしとして美咲のプライドをこれ以上傷つけないようにしたいと思ったから。

イ 美咲が泣いた原因をつくったのは自分であるが、そのことをおばさんに気づかれてしまったら自分と美咲は今のような友達ではいられないと思ったから。

ウ 友迫さんの優しさに触れて喜んでいたおばさんに自分が美咲を泣かせたと知れたら、いよいよ友迫さんがいい人だと思われそうでしょくにさわるから。

エ ふだん強がってばかりいる美咲の泣き顔は自分には見せない親友のあかしであり、他の誰にも見せたくない大事なものであると確信しているから。

問9 本文中から読み取れることとしてもっとも適切なものを次のア、イの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 美咲と友迫さんとの間で板ばさみになった理穂は、自分を悪者にしてこの場を収めている。

イ すなおに涙を流せる友迫さんに対し、理穂は腹立たしく思う反面うらやましく感じている。

ウ 理穂は美咲の怒りを受け止め、美咲も理穂なりの優しい心づかいに気づいて感謝している。

エ 理穂は美咲のことを理解し、美咲も理穂が自分のことを分かってくれていると信じている。

一

問10	問9	問7	問6	問5	問3	問2	問1
				1		I	①
					問4	II	②
		問8		2		III	③

--	--	--	--	--	--	--	--

一の得点

総得点

二

問9	問7	問5	問4	問2	問1
			1		a
	問8	問6		問3	b
			2		

--	--	--	--	--	--

二の得点

受験番号
氏名